

豚肉トレーサビリティに関する アンケート報告書

【生産農場編】

「豚の飼育管理の記録に関する調査」

2013年3月

一般社団法人 日本養豚協会

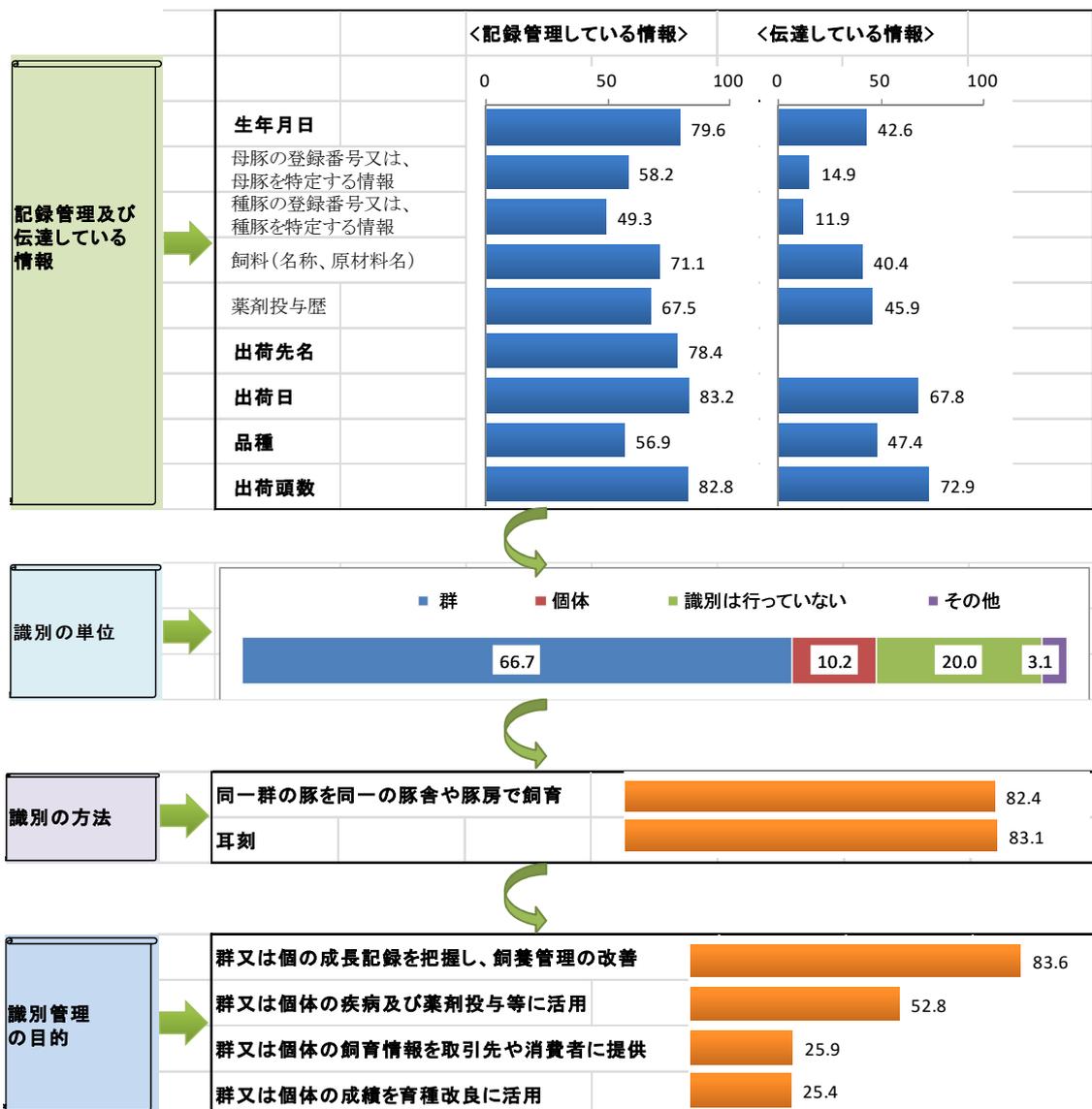
要 約

1 生産農場における肉豚の飼養管理・出荷販売の記録保管状況

生産農場における肉豚の飼育・出荷販売において、トレーサビリティ確立に必要な移動に関する記録保管は、トレーサビリティシステム導入の有無にかかわらず、かなりの割合で実施していることがわかる。実際には生産農場が肉豚をと畜場に出荷した場合、その伝票を保管することで移動の履歴を確認することが可能となっている。

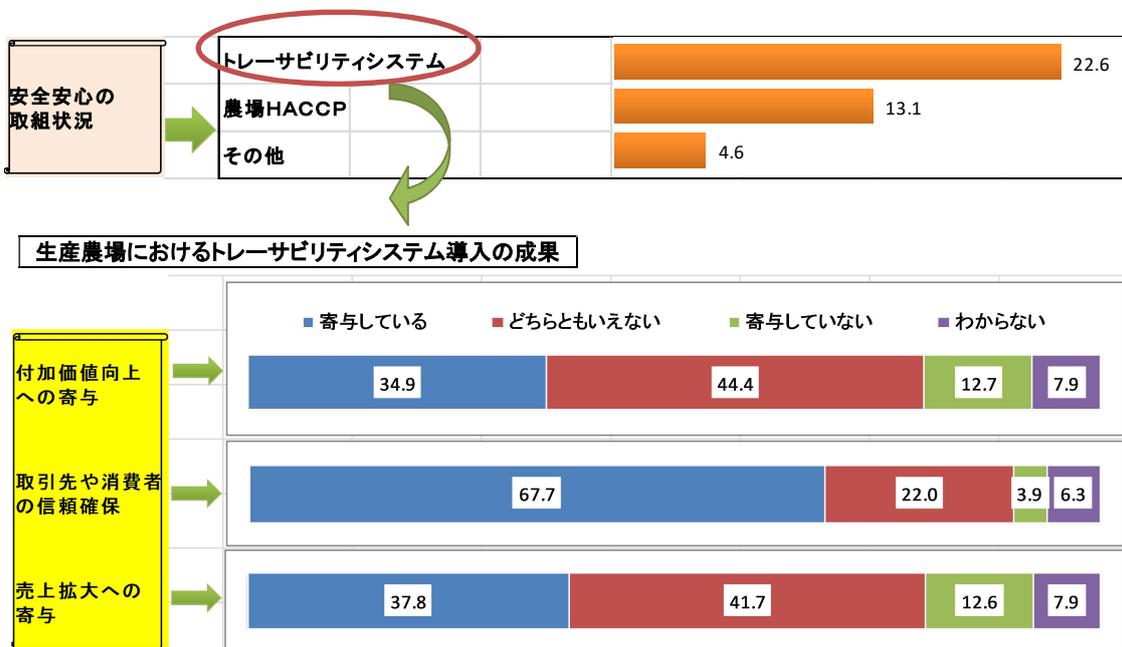
ただし、システムとして構築する必要がある、具体的には、責任者・担当者、作業手順、識別単位、記録保管及び伝達の項目・方法・媒体、出荷販売先などとの連携方法、検査・監査の方法、問い合わせ対応などについて予め決めて取り組むことが重要である。

識別管理の目的としては、飼養管理の改善、薬剤投与の効果、飼育情報の提供、育種改良などがあげられている。トレーサビリティを基礎的なシステムとして導入し、衛生を含む飼育管理や出荷販売のデータを活用することで、これらの改善が期待される。



2 生産農場におけるトレーサビリティシステム導入の成果

トレーサビリティシステムを導入している生産農場では、その成果として、「付加価値向上への寄与」が35%、「取引先や消費者からの信頼確保」が68%、「売上拡大への寄与」が38%となっており、明らかに成果が確認できる。一方で、成果についてどちらでもない・寄与していない・わからないもみられた。



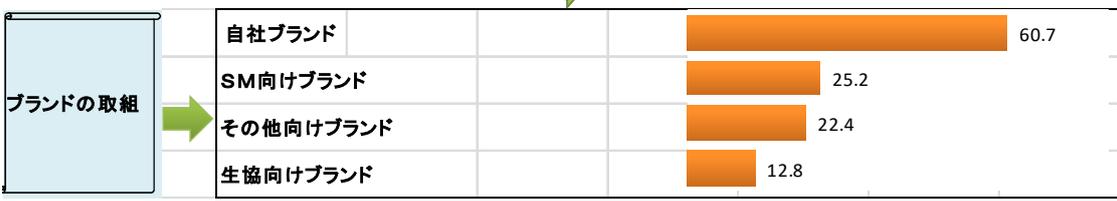
3 生産農場におけるトレーサビリティシステム導入の課題と今後の方策

トレーサビリティシステム導入の初期費用や維持費については、導入済みの生産農場のうち、4割前後が「負担が大きいとは思わない」、2割前後が「負担が大きい」となっている。負担の大きさはどのようなシステムを構築するかによるところが大きい。

トレーサビリティシステム導入していない生産農場の理由として、「分別や記録など作業が面倒」、「生産者の顔のみえる対応で十分だから」、「内容や方法がわからない」、「導入の効果が見込めない」などがあげられており、普及に向けた課題といえる。

生産農場において、消費者に国産豚肉の良さを伝える重要な取組としては、「トレーサビリティ」の位置づけは、「生産者の表示」、「衛生管理」、「ブランド管理」よりも低いことがわかる。

しかし、既にみたように生産農場における肉豚の群・個体の識別管理の目的やトレーサビリティシステム導入済み生産農場の成果を踏まえて、総合的に判断すると、トレーサビリティシステムを基本として、衛生管理やブランド管理を組み合わせる構築することが望ましい。生産農場ではブランド取組の割合が高いが、ブランド価値を高めるための管理が十分とはいえないからである。



回答農場の属性

- 1 肉豚の飼育・出荷販売における情報の記録管理
- 2 豚トレーサビリティシステムの取組状況
- 3 豚トレーサビリティシステム取組の成果について
- 4 豚トレーサビリティシステム取組の課題

<input type="checkbox"/> アンケート実施時期	平成24年10月
<input type="checkbox"/> 調査の対象	日本養豚協会の会員農場
<input type="checkbox"/> 発送数	
<input type="checkbox"/> 有効回収数	589農場
<input type="checkbox"/> 回収率	%

□ 回答農場の属性

➤ 回答農場の経営組織形態

回答農場の経営形態は、個人経営が最も多く、次いで有限会社、株式会社、農業生産法人の順となっている。肥育出荷規頭数模別にみると、規模が小さいほど個人経営が多く、規模が大きいほど有限会社や株式会社が多くなっている。

トレーサビリティシステムを導入している農場は、23%（回答農場 589 戸のうち、133 戸）であった。一方、導入していない農場は 77%（456 戸）となっている。

図 1-1 回答農場の経営組織形態

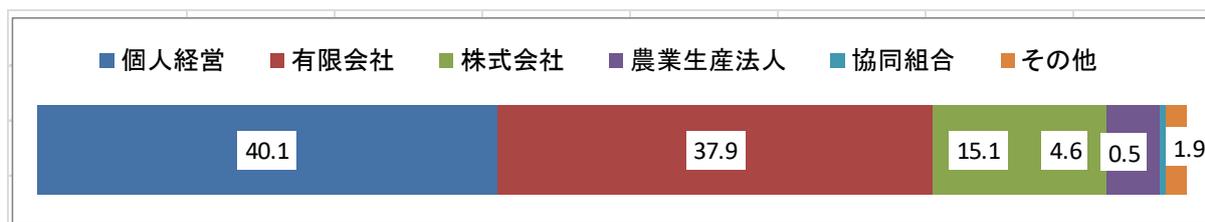


表 1-1 回答農場の経営組織形態

	回答数 戸	計 %	個人経営	農業生産 法人	協同組合	有限会社	株式会社	その他
			%	%	%	%	%	%
計	589	100.0	40.1	4.6	0.5	37.9	15.1	1.9
肥 頭 育 数 出 荷	2,000頭未満	197	100.0	77.2	0.5	0.0	18.3	2.5
	2,000～9,999頭	260	100.0	30.0	6.5	0.0	51.5	10.4
	10,000頭以上	123	100.0	0.8	7.3	2.4	43.1	44.7
サ ト ビ レ リ ー	導入済み	133	100.0	35.3	5.3	0.0	43.6	15.0
	未導入	456	100.0	41.4	4.4	0.7	36.2	15.1

➤ 回答農場の経営規模

● 子取り用めす豚頭数

生産農場 572 戸のうち、子取り用めす豚頭数は「100 頭未満」が 30%、「100～199 頭」が 25%、「200～499 頭」が 24%、「500～999 頭」が 11%、「1,000 頭以上」が 10%となっている。

図 1-2 子取り用めす豚頭数

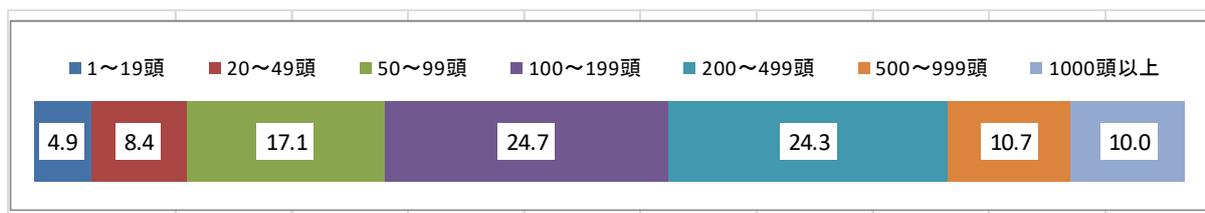


表 1-2 子取り用めす豚頭数

		回答数	計	1～19頭	20～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1000頭以上
		戸	%	%	%	%	%	%	%	%
計		572	100.0	4.9	8.4	17.1	24.7	24.3	10.7	10.0
肥育頭数出荷	2,000頭未満	184	100.0	13.6	24.5	48.4	10.9	1.1	1.6	0.0
	2,000～9,999頭	257	100.0	0.0	0.4	3.1	46.3	47.9	1.6	0.8
	10,000頭以上	122	100.0	0.0	0.0	0.0	0.8	10.7	43.4	45.1
サトビリー	導入済み	130	100.0	3.8	13.1	13.1	21.5	23.8	14.6	10.0
	未導入	442	100.0	5.2	7.0	18.3	25.6	24.4	9.5	10.0

➤ 肥育豚年間出荷頭数

生産農場 572 戸のうち、肥育年間出荷頭数は「1,000 頭未満」が 16%、「1,000～1,999 頭」が 18%、「2,000～3,999 頭」が 23%、「4,000～9,999 頭」が 22%、「10,000～19,999 頭以上」が 12%、「20,000 頭以上」が 9%となっている。

図 1-3 肥育豚年間出荷頭数

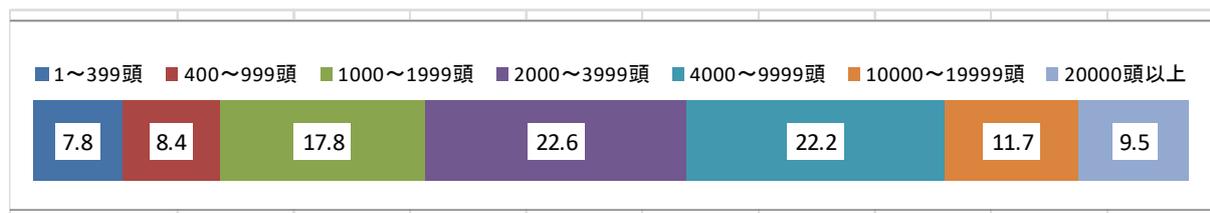


表 1-3 肥育豚年間出荷頭数

		回答数	計	1～399頭	400～999頭	1000～1999頭	2000～3999頭	4000～9999頭	10000～19999頭	20000頭以上
		戸	%	%	%	%	%	%	%	%
計		572	100.0	7.8	8.4	17.8	22.6	22.2	11.7	9.5
サトビリー	導入済み	130	100.0	6.9	13.1	12.3	20.0	24.6	13.1	10.0
	未導入	442	100.0	8.0	7.1	19.3	23.3	21.6	11.3	9.3

1 肉豚の飼育・出荷販売における情報の記録管理

(1) 肉豚の飼育管理における識別方法

➤ 肉豚の飼育管理における識別単位

肉豚飼育管理において識別している単位は、群が67%で圧倒的に多く、個体は10%となっている。飼育管理の記録の多くは群単位によって行われていることがわかる。一方で1頭単位も少ないが取り組んでいる。なお、識別を行っていないのは20%であった。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きくなるほど群単位が多く、規模が小さいほど個体が多い傾向にある。

また、トレーサビリティシステムを導入している場合は、群や個体による識別の割合が高い。

図 1-4 肉豚の飼育管理における識別単位

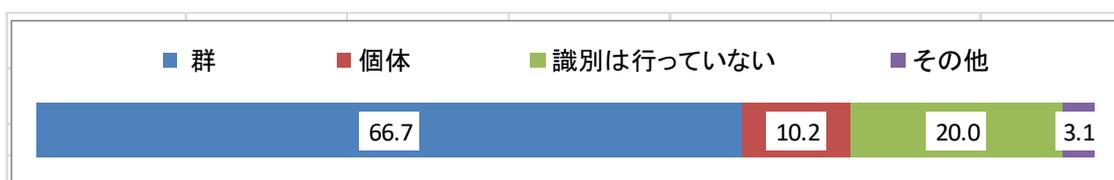


表 1-4 肉豚の飼育管理における識別単位

		回答数	計	群	個体	その他	識別は行っていない
		戸	%	%	%	%	%
計		580	100.0	66.7	10.2	3.1	20.0
肥育 頭数 出荷	2,000頭未満	195	100.0	60.0	13.3	3.6	23.1
	2,000～9,999頭	259	100.0	68.3	9.7	3.9	18.1
	10,000頭以上	123	100.0	74.8	4.9	0.8	19.5
サト ビレ リ	導入済み	132	100.0	70.5	20.5	0.8	8.3
	未導入	448	100.0	65.6	7.1	3.8	23.4

➤ 肉豚の群管理における識別方法

肉豚の群管理における識別方法は、「同一群の豚を同一の豚舎や豚房で飼育」が82%で圧倒的に多く、「同一群の豚に同一番号の耳刻」は14%となっている。群管理においては豚舎や豚房で分別して飼育し、さらに耳刻などで識別している。

図 1-5 肉豚の群管理における識別方法

注：複数回答

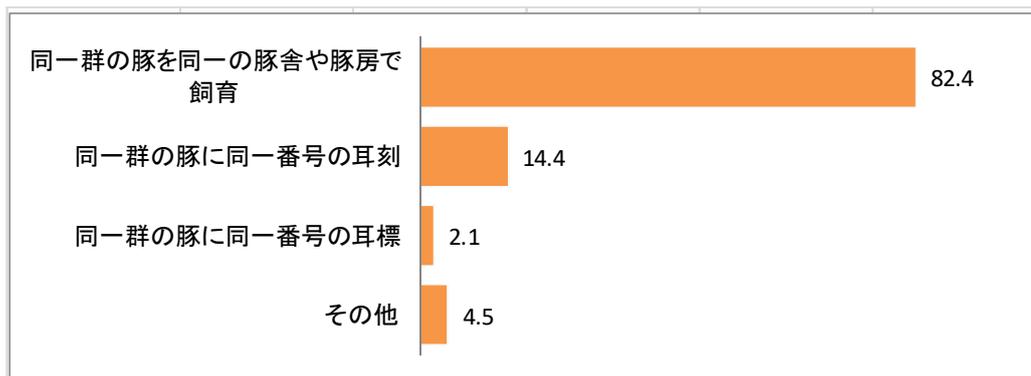


表 1-5 肉豚の群管理における識別方法

注：複数回答

		回答数	同一群の豚に同一番号の耳標	同一群の豚に同一番号の耳刻	同一群の豚を同一の豚舎や豚房で飼育	その他
		戸	%	%	%	%
計		381	2.1	14.4	82.4	4.5
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	115	3.5	17.4	78.3	3.5
	2,000～9,999頭	174	1.1	12.1	83.3	5.7
	10,000頭以上	91	2.2	14.3	86.8	3.3
テ ィ レ ィ リ ー	導入済み	90	2.2	21.1	75.6	7.8
	未導入	291	2.1	12.4	84.5	3.4

➤ 肉豚の個体管理における識別方法

生産農場のうち、肉豚の個体管理を行っているのは 59 戸となっている。これら肉豚の個体管理における識別方法は、「耳刻」が 83% で圧倒的に多く、「一般的な耳標」は 25% となっており、「電子耳標」が 2% であった。なお、「電子耳標」は肥育年間出荷頭数規模が「10,000 頭以上」、「トレーサビリティシステム導入済み」でみられた。

図 1-6 肉豚の個体管理における識別方法

注：複数回答

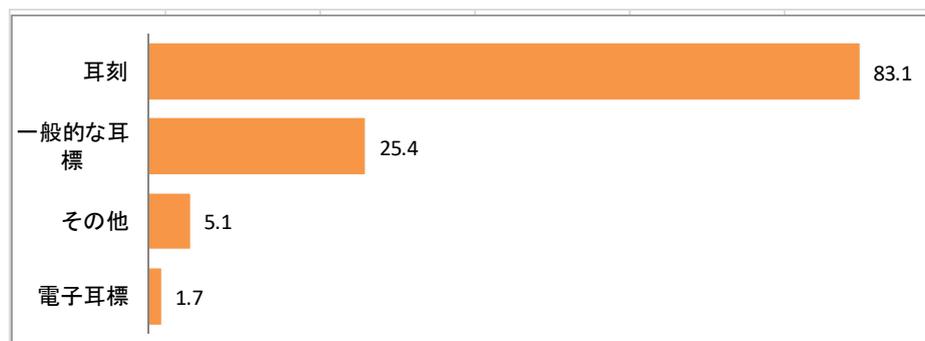


表 1-6 肉豚の個体管理における識別方法

注：複数回答

		回答数	一般的な耳標	電子耳標	耳刻	その他
		戸	%	%	%	%
計		59	25.4	1.7	83.1	5.1
肥 頭 育 数 出 荷	2,000頭未満	26	34.6	0.0	76.9	0.0
	2,000～9,999頭	25	16.0	0.0	96.0	4.0
	10,000頭以上	6	16.7	16.7	66.7	16.7
テ ィ サ ビ リ ー	導入済み	27	25.9	3.7	81.5	7.4
	未導入	32	25.0	0.0	84.4	3.1

(2) 肉豚の飼育管理における識別の目的

肉豚の飼育管理における識別の目的は、「群又は個の成長記録を把握し、飼養管理の改善を図るため」が84%で圧倒的に多く、次いで「群又は個体の疾病及び薬剤投与等の履歴を記録し、衛生管理に活用するため」が53%となっている。その他「群又は個体の飼育情報を記録し、取引先業者や消費者に提供するため」、「群又は個体の成績を育種改良に活用するため」の順となっている。

肉豚の群や個体による識別管理の目的は、肥育効率や衛生管理の改善が主体となっており、取引先などへの情報提供や育種改良もみられる。これらの取組は、総じて肥育年間出荷頭数規模が大きいほど、また、トレーサビリティシステム導入済みの生産農場で高い傾向にある。

図 1-7 肉豚の飼育管理における識別の目的

注：複数回答

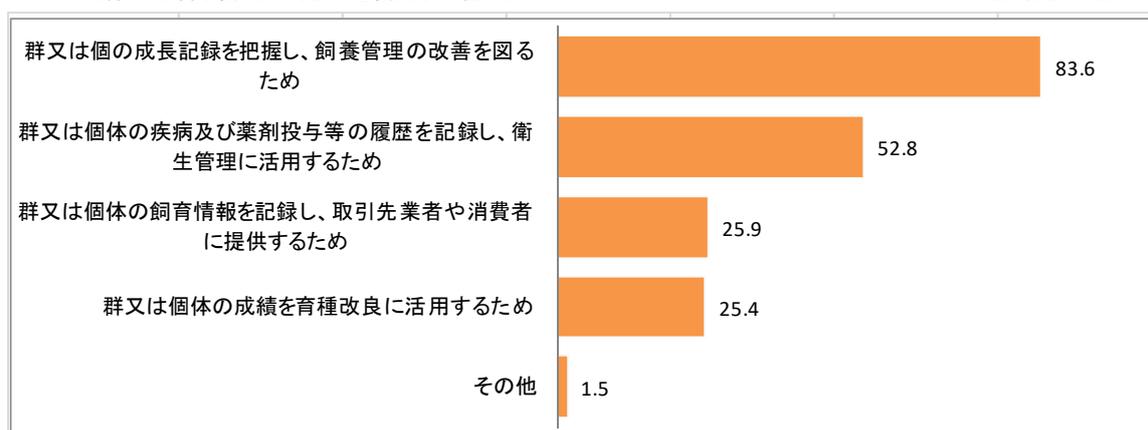


表 1-7 肉豚の飼育管理における識別の目的

注：複数回答

		回答数	群又は個の成長記録を把握し、飼養管理の改善を図るため	群又は個体の成績を育種改良に活用するため	群又は個体の疾病及び薬剤投与等の履歴を記録し、衛生管理に活用するため	群又は個体の飼育情報を記録し、取引先業者や消費者に提供するため	その他
		戸	%	%	%	%	%
計		390	83.6	25.4	52.8	25.9	1.5
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	119	77.3	34.5	38.7	20.2	2.5
	2,000～9,999頭	178	87.1	23.0	50.6	23.6	0.0
	10,000頭以上	91	84.6	17.6	75.8	37.4	3.3
サ ト ビ リ ー	導入済み	114	86.0	27.2	62.3	45.6	0.9
	未導入	276	82.6	24.6	48.9	17.8	1.8

(3) 豚の飼育・出荷販売における記録管理・伝達の情報

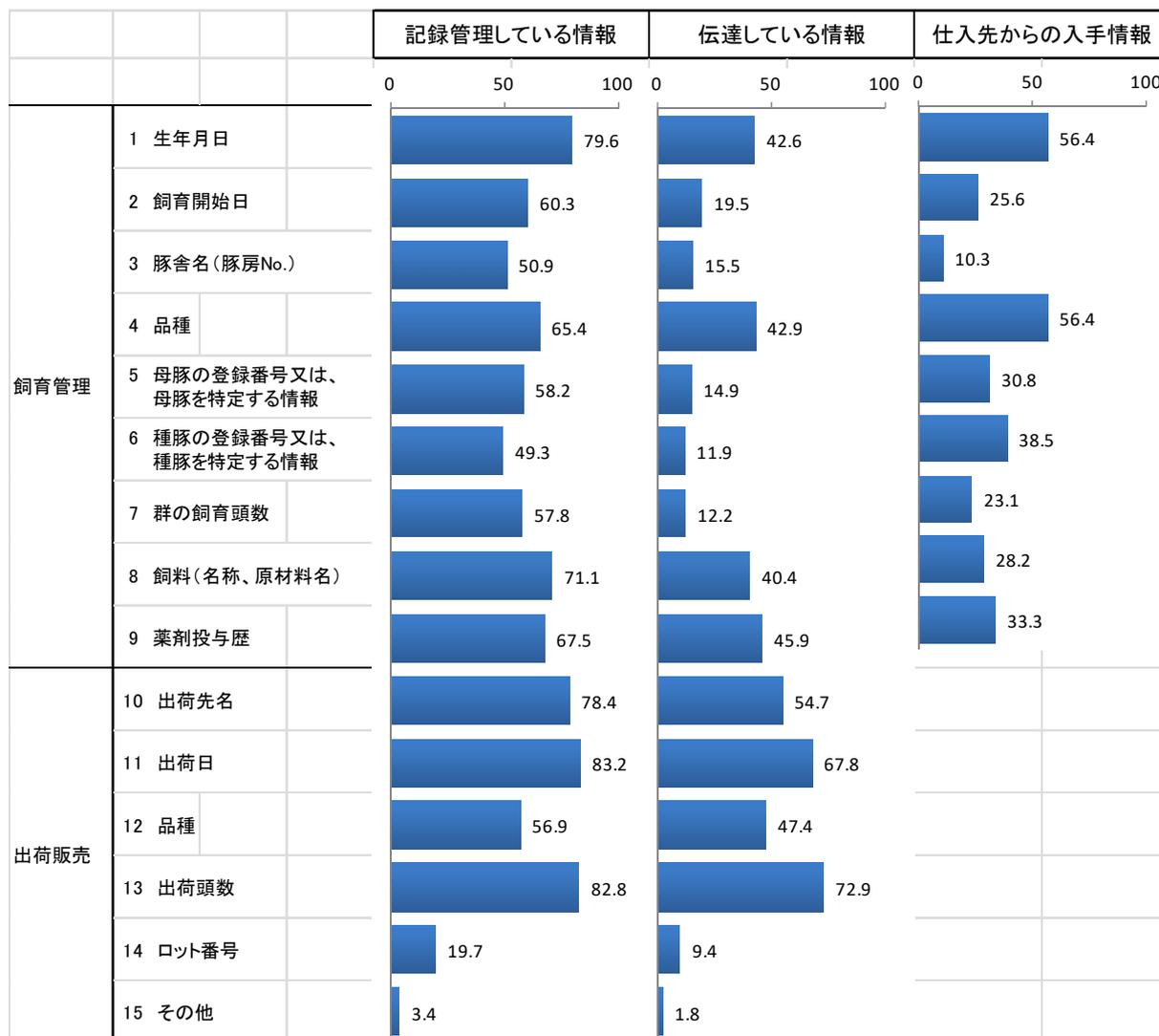
➤ 豚の飼育・出荷販売における記録管理・伝達の情報

肉豚の飼育管理に関する情報の記録項目は、「生年月日」が最も多く、次いで「飼料（名称、原材料名）」、「薬剤投与歴」、「品種」、「飼育開始日」、「母豚の登録番号又は母豚を特定する情報」の順となっている。このうち、出荷販売先に伝達している情報項目は、「薬剤投与歴」が最も多く、次いで「品種」、「生年月日」の順となっている。

次に出荷販売に関する情報の記録項目は、「出荷日」が最も多く、次いで「出荷頭数」、「出荷先名」、「品種」の順となっている。出荷販売先に伝達している情報項目も概ね記録項目と同様な順となっている。

トレーサビリティを確立するために必要な情報の記録項目は、移動を把握できる項目でなければならない。特に出荷販売において記録管理されている項目についてみると出荷先名、出荷日、出荷頭数の割合が高いことから、トレーサビリティシステム導入の要件は整っているとみることができる。

図 1-8 豚の飼育・出荷販売において記録管理・伝達している情報



(4) 豚の飼育・出荷販売における記録・伝達の媒体

➤ 豚の飼育管理における記録媒体

豚の飼育管理における記録媒体は、「帳票・帳簿」、「ノート(雑記帳含む)」、「伝票」、「電子データ(パソコン等)」の4つが多く、これら媒体を複数活用し、記録保存していることがわかる。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きくなるほど「帳票・帳簿」や「電子データ(パソコン等)」の使用割合が高い傾向にある。

また、トレーサビリティシステムを導入している場合も、「帳票・帳簿」や「電子データ(パソコン等)」の割合が高い。

図 1-9 豚の飼育管理における記録媒体

注：複数回答

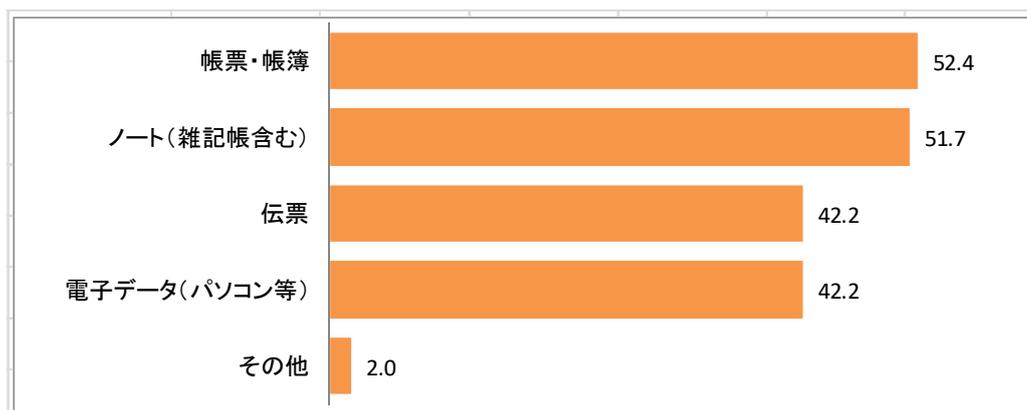


表 1-8 豚の飼育管理における記録媒体

注：複数回答

		回答数	伝票	帳票・帳簿	ノート (雑記帳含む)	電子データ (パソコン等)	その他
		戸	%	%	%	%	%
計		538	42.2	52.4	51.7	42.2	2.0
肥育 頭数 出荷	2,000頭未満	170	48.2	40.6	61.2	18.8	1.8
	2,000～9,999頭	240	37.5	49.6	50.0	44.6	2.9
	10,000頭以上	121	43.0	74.4	40.5	71.1	0.8
サト ビレ リー	導入済み	131	45.0	58.0	45.0	58.8	2.3
	未導入	407	41.3	50.6	53.8	36.9	2.0

➤ 豚の出荷販売における情報の伝達媒体

豚の出荷販売における情報の伝達媒体は、「伝票」が圧倒的に多く、次いで「ファクシミリ」であり、「インターネット（メール・WEB・EDI等）」はきわめて少ない。「インターネット（メール・WEB・EDI等）」の活用は、肥育年間出荷頭数規模が大きい生産農場やトレーサビリティシステム導入済みの生産農場でその割合が高い。

図 1-10 豚の出荷販売における情報の伝達媒体

注:複数回答

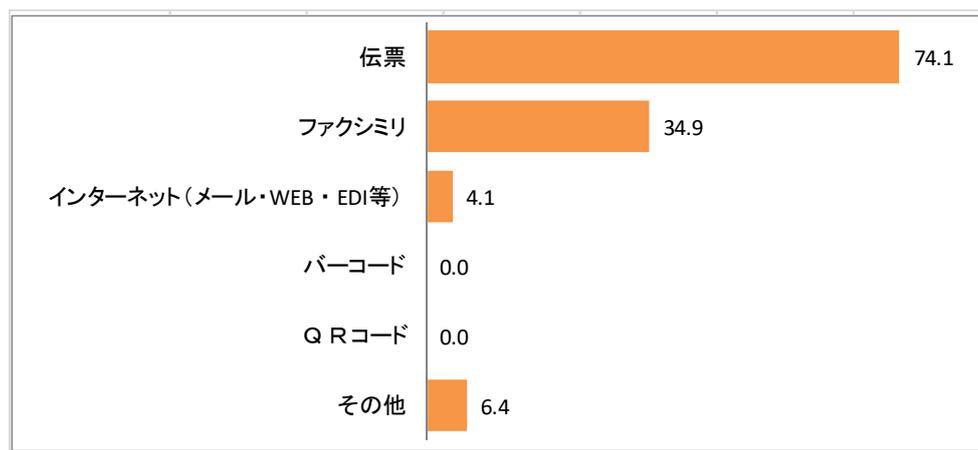


表 1-9 豚の出荷販売における情報の伝達媒体

注:複数回答

		回答数	伝票	インターネット (メール・WEB・EDI等)	ファクシミリ	バーコード	QRコード	その他
		戸	%	%	%	%	%	%
計		436	74.1	4.1	34.9	0.0	0.0	6.4
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	136	74.3	2.2	33.8	0.0	0.0	7.4
	2,000~9,999頭	183	73.2	2.7	34.4	0.0	0.0	5.5
	10,000頭以上	111	75.7	9.0	36.9	0.0	0.0	6.3
サ ト ビ レ ー	導入済み	118	77.1	5.9	36.4	0.0	0.0	1.7
	未導入	318	73.0	3.5	34.3	0.0	0.0	8.2

2 豚トレーサビリティシステムの取組状況

(1) 豚の安全・安心のために導入している取組

豚の安全・安心のために導入している取組は、「トレーサビリティシステム」が23%（133戸）、「農場HACCP」が13%（77戸）となっている。

「農場HACCP」の導入割合は肥育年間出荷頭数規模が大きいほどが高い。また、「トレーサビリティシステム」の導入割合は肥育年間出荷頭数規模が大きいほどわずかに高い傾向がみられる。

図 1-11 豚の安全・安心のために導入している取組

注：複数回答

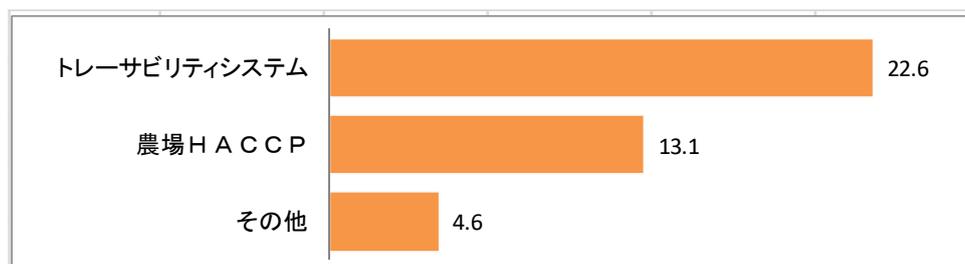


表 10 豚の安全・安心のために導入している取組

注：複数回答

		回答数	トレーサビリティシステム	農場HACCP	その他	特になし
		戸	%	%	%	%
計		589	22.6	13.1	4.6	59.8
肥育 頭数 出荷	2,000頭未満	197	21.3	7.1	3.0	68.5
	2,000～9,999頭	260	22.3	11.5	4.6	61.5
	10,000頭以上	123	24.4	26.0	7.3	42.3

(2) トレーサビリティシステム導入時期

豚のトレーサビリティシステム導入時期は「6～9年前」が43%で最も多く、次いで「3～5年前」が33%、「10年以上前」が15%となっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど導入時期が早い傾向がみられる。

図 1-12 トレーサビリティシステム導入時期

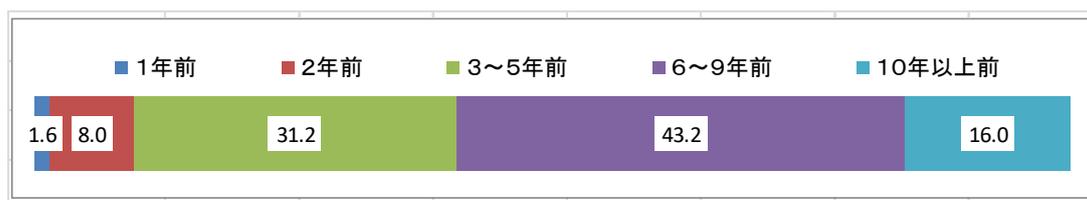


表 1-11 トレーサビリティシステム導入時期

		回答数	計	1年前	2年前	3～5年前	6～9年前	10年以上前
		戸	%	%	%	%	%	%
計		125	100.0	1.6	8.0	31.2	43.2	16.0
肥育頭数出荷	2,000頭未満	41	100.0	2.4	7.3	43.9	34.1	12.2
	2,000～9,999頭	55	100.0	1.8	5.5	29.1	41.8	21.8
	10,000頭以上	26	100.0	0.0	15.4	15.4	57.7	11.5

(3) トレーサビリティシステムを導入した理由

トレーサビリティシステムを導入した理由は、「取引先（外食、小売業等）に対する信頼の確保」が最も多く、次いで、「消費者に対する信頼の確保」、「生産履歴情報の遡及・追跡」、「生産流通経路の透明性」、「同業者間における競争力の向上」の順となっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど「取引先（外食、小売業等）に対する信頼の確保」、「生産履歴情報の遡及・追跡」の割合が高い傾向にある。また、規模が小さいほど「消費者に対する信頼の確保」が高い傾向にある。

図 1-13 豚のトレーサビリティシステムを導入した理由

注：複数回答

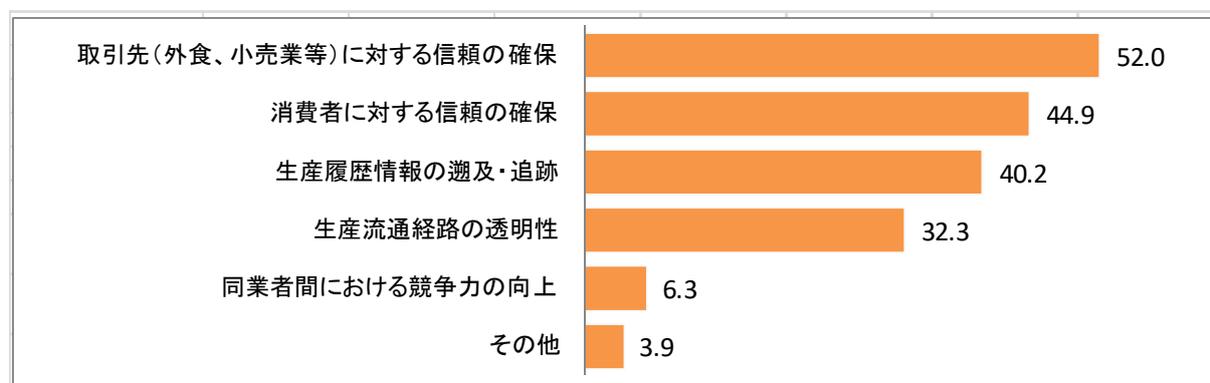


表 1-12 豚のトレーサビリティシステムを導入した理由

注：複数回答

		回答数	生産流通経路の透明性	取引先(外食、小売業等)に対する信頼の確保	生産履歴情報の遡及・追跡	消費者に対する信頼の確保	同業者間における競争力の向上	その他
		戸	%	%	%	%	%	%
計		127	32.3	52.0	40.2	44.9	6.3	3.9
肥育頭数出荷	2,000頭未満	41	39.0	46.3	34.1	53.7	4.9	2.4
	2,000～9,999頭	57	31.6	52.6	38.6	42.1	5.3	0.0
	10,000頭以上	27	25.9	59.3	48.1	40.7	11.1	14.8

(4) トレーサビリティシステム導入のコスト負担について

▶ トレーサビリティシステム導入の初期コスト負担について

トレーサビリティシステム導入の初期コスト負担については、「負担が大きいと思う」が21%、「どちらともいえない」が35%、「負担が大きいとは思わない」が40%となっている。初期コストについては総じて、負担が大きいとは考えていない農場が多くなっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど「負担が大きいとは思わない」の割合が高い。

図 1-14 トレーサビリティシステム導入の初期コスト負担について



表 1-13 トレーサビリティシステム導入の初期コスト負担について

	回答数	計	負担が大きいと	どちらともい	負担が大きい	わからない	
			思う	えない	とは思わない		
	戸	%	%	%	%	%	
計	127	100.0	20.5	34.6	40.2	4.7	
肥育 頭数 出荷	2,000頭未満	41	100.0	24.4	34.1	36.6	4.9
	2,000~9,999頭	57	100.0	14.0	36.8	42.1	7.0
	10,000頭以上	27	100.0	29.6	29.6	40.7	0.0

▶ トレーサビリティシステム継続するための負担（作業量の増大・システム維持費）について

トレーサビリティシステム継続するための負担（作業量の増大・システム維持費）は、「負担が大きいと思う」が20%、「どちらともいえない」が37%、「負担が大きいとは思わない」が39%となっている。ランニングコストについては総じて、負担が大きいとは考えていない農場が多くなっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど「負担が大きいとは思わない」の割合が高い。

図 1-15 トレーサビリティシステム継続するための負担(作業量の増大・システム維持費)について



表 1-14 トレーサビリティシステム継続するための負担(作業量の増大・システム維持費)について

		回答数	計	負担が大きい と思う	どちらともい えない	負担が大きい とは思わない	わからない
		戸	%	%	%	%	%
計		126	100.0	19.8	36.5	38.9	4.8
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	40	100.0	25.0	40.0	30.0	5.0
	2,000～9,999頭	56	100.0	12.5	37.5	42.9	7.1
	10,000頭以上	28	100.0	28.6	28.6	42.9	0.0

3 豚トレーサビリティシステム取組の成果について

(1) 付加価値向上への寄与

豚のトレーサビリティシステム導入が付加価値向上に「寄与している」とする生産農場の割合は35%となっており、「どちらともいえない」が44%、「寄与していない」が13%であった。総じて、付加価値向上に寄与していることがうかがえる。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が小さいほど「寄与している」割合が高い傾向にある。

図 1-16 豚のトレーサビリティシステム導入における付加価値向上への寄与



表 1-15 豚のトレーサビリティシステム導入における付加価値向上への寄与

		回答数	計	寄与している	どちらともいえない	寄与していない	わからない
		戸	%	%	%	%	%
計		126	100.0	34.9	44.4	12.7	7.9
肥育 頭数 出荷	2,000頭未満	41	100.0	39.0	41.5	12.2	7.3
	2,000~9,999頭	57	100.0	33.3	43.9	14.0	8.8
	10,000頭以上	26	100.0	30.8	50.0	11.5	7.7

(2) 取引先や消費者からの信頼確保

豚のトレーサビリティシステム導入が取引先や消費者からの信頼確保に「寄与している」とする生産農場の割合は全体の2/3を超えており、「どちらともいえない」が22%、「寄与していない」が4%であった。総じて、取引先や消費者からの信頼確保に寄与していることがわかる。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど「寄与している」割合が高い傾向にある。

図 1-17 豚のトレーサビリティシステム導入における取引先や消費者からの信頼確保



表 1-16 豚のトレーサビリティシステム導入における取引先や消費者からの信頼確保

		回答数	計	寄与している	どちらともいえない	寄与していない	わからない
		戸	%	%	%	%	%
計		127	100.0	67.7	22.0	3.9	6.3
肥育頭数出荷	2,000頭未満	41	100.0	65.9	22.0	4.9	7.3
	2,000～9,999頭	57	100.0	63.2	22.8	5.3	8.8
	10,000頭以上	27	100.0	81.5	18.5	0.0	0.0

(3) 売上拡大への寄与

豚のトレーサビリティシステム導入が売上拡大に「寄与している」とする生産農場の割合は38%となっており、「どちらともいえない」が42%、「寄与していない」が13%であった。総じて、取引先や消費者からの信頼確保に寄与していることがうかがえる。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が小さいほど「寄与している」割合が高い傾向にある。

図 1-18 豚のトレーサビリティシステム導入における売上拡大への寄与

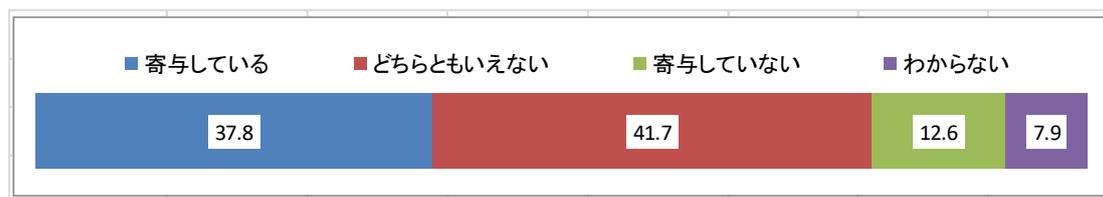


表 1-17 豚のトレーサビリティシステム導入における売上拡大への寄与

		回答数	計	寄与している	どちらともいえない	寄与していない	わからない
		戸	%	%	%	%	%
計		127	100.0	37.8	41.7	12.6	7.9
肥育頭数出荷	2,000頭未満	41	100.0	46.3	31.7	14.6	7.3
	2,000～9,999頭	57	100.0	36.8	38.6	17.5	7.0
	10,000頭以上	27	100.0	29.6	63.0	0.0	7.4

4 豚トレーサビリティシステム取組の課題

(1) 豚トレーサビリティシステムの認知度

豚トレーサビリティシステムの認知度は、「内容や方法について知っている」が27%にすぎず、「概ね知っている」が36%、「名称だけ知っている」が28%、「知らない」が9%となっている。

図 1-19 豚トレーサビリティシステムの認知度



表 1-18 豚トレーサビリティシステムの認知度

		回答数	計	内容や方法について知っている	概ね知っている	名称だけ知っている	知らない
		戸	%	%	%	%	%
計		558	100.0	26.7	36.2	27.8	9.3
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	187	100.0	21.4	26.2	38.0	14.4
	2,000～9,999頭	246	100.0	24.4	41.9	25.6	8.1
	10,000頭以上	119	100.0	38.7	40.3	16.8	4.2
サ ト レ ビ リ ー	導入済み	124	100.0	58.9	37.9	1.6	1.6
	未導入	434	100.0	17.5	35.7	35.3	11.5

(2) 豚のトレーサビリティシステムを導入していない理由

豚のトレーサビリティシステムを導入していない理由は、「分別や記録など作業が面倒」が39%で最も多く、次いで「生産者名の表示など、生産者の顔のみえる対応で十分だから」が30%、「内容や方法がわからない」が30%、「導入の効果が見込めない」が29%、「費用がかかるから」が24%、「農場 HACCP などの衛生管理システムの導入で十分だから」が14%の順となっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が小さい生産農場では「生産者名の表示など、生産者の顔のみえる対応で十分だから」、「内容や方法がわからない」の割合が高く、規模の大きい生産農場では「導入の効果が見込めない」の割合が高い。

図 1-20 豚のトレーサビリティシステムを導入していない理由

注:複数回答

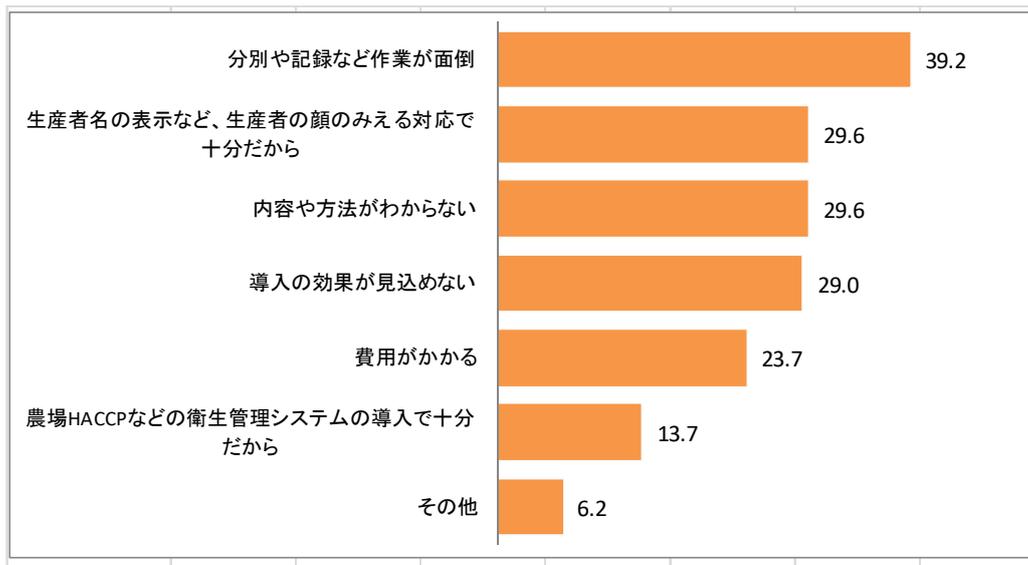


表 1-19 豚のトレーサビリティシステムを導入していない理由

注:複数回答

		回答数	費用がかか かる	分別や記 録など作業 が面倒	内容や方 法がわから ない	導入の効 果が見込 めない	農場 HACCPな どの衛生管 理システム の導入で 十分だから	生産者名 の表示な ど、生産者 の顔のみ える対応で 十分だから	その他
		戸	%	%	%	%	%	%	%
計		372	23.7	39.2	29.6	29.0	13.7	29.6	6.2
肥 育 頭 数 出 荷	2,000頭未満	115	24.3	37.4	35.7	25.2	7.8	38.3	5.2
	2,000~9,999頭	170	20.6	45.9	31.2	27.6	11.8	24.1	7.1
	10,000頭以上	84	28.6	29.8	16.7	38.1	25.0	29.8	6.0

(3) トレーサビリティシステムを導入していたが現在中止している場合、その取組期間

トレーサビリティシステムを導入していたが現在中止している農場は17戸となっている。その取組期間は、「3~5年」が41%で最も多く、次いで「2年」が29%、「1年」が12%、「10年以上」が12%、「6~9年」が6%となっている。

中止した理由は、電子データベースシステムのコスト負担が大きいこと、入力作業などの人件費が大きいこと、取引先が中止したことなどとなっている。

図 1-21 トレーサビリティシステムを導入していたが現在中止している場合、その取組期間について



表 1-20 トレーサビリティシステムを導入していたが現在中止している場合、その取組期間について

		回答数	計	1年	2年	3～5年	6～9年	10年以上
		戸	%	%	%	%	%	%
計		17	100.0	11.8	29.4	41.2	5.9	11.8
肥育頭数出荷	2,000頭未満	7	100.0	0.0	28.6	57.1	0.0	14.3
	2,000～9,999頭	6	100.0	0.0	50.0	16.7	16.7	16.7
	10,000頭以上	4	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
サトビリー	導入済み	—	—	—	—	—	—	—
	未導入	17	100.0	11.8	29.4	41.2	5.9	11.8

(4) 豚肉の安全・安心のための取組について

➤ 豚肉ブランドの取組状況について

豚肉ブランドの取組状況については、「自社ブランド」が61%と圧倒的に多く、次いで「SM向けブランド」が25%、「その他向けブランド」が22%、「生協向けブランド」が13%となっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど「自社ブランド」の割合が高い。また、トレーサビリティシステム導入済みの農場では「自社ブランド」の割合が高い。

図 1-22 豚肉ブランドの取組状況について

注：複数回答

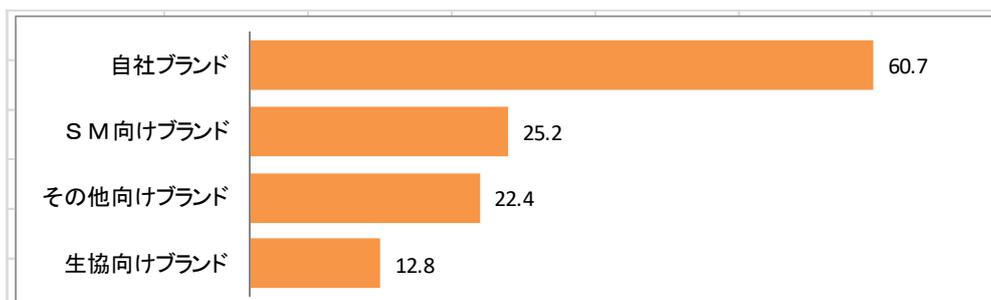


表 1-21 豚肉ブランドの取組状況について

注：複数回答

		回答数	自社ブランド	生協向け ブランド	SM向け ブランド	その他向け ブランド
		戸	%	%	%	%
計		290	60.7	12.8	25.2	22.4
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	74	47.3	9.5	20.3	33.8
	2,000～9,999頭	133	57.9	10.5	28.6	21.1
	10,000頭以上	82	76.8	19.5	24.4	14.6
サ ト ビ レ リ ー	導入済み	92	66.3	12.0	27.2	18.5
	未導入	198	58.1	13.1	24.2	24.2

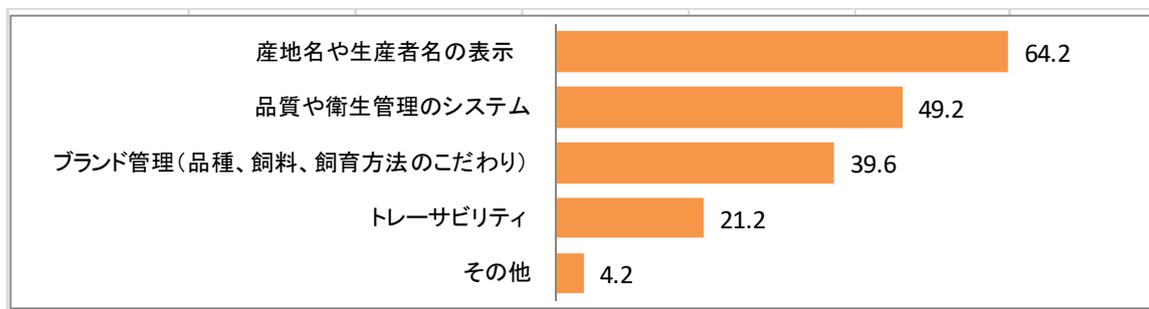
➤ 消費者に国産豚肉の良さを伝えるために重要な取組について

消費者に国産豚肉の良さを伝えるために重要な取組については、「産地名や生産者名の表示」が64%で圧倒的に多く、次いで「品質や衛生管理のシステム」が49%、「ブランド管理（品種、飼料、飼育方法のこだわり）」が40%、「トレーサビリティ」が21%となっている。

肥育年間出荷頭数規模別にみると、規模が大きいほど「品質や衛生管理のシステム」の割合が高い。また、トレーサビリティシステム導入済みの生産農場では「トレーサビリティ」の割合が高い。

図 1-23 消費者に国産豚肉の良さを伝えるために重要な取組について

注：複数回答



1-22 消費者に国産豚肉の良さを伝えるために重要な取組について

注：複数回答

		回答数	産地名や生産者名の表示	トレーサビリティ	品質や衛生管理のシステム	ブランド管理 (品種、飼料、飼育方法の こだわり)	その他
		戸	%	%	%	%	%
計		553	64.2	21.2	49.2	39.6	4.2
肥 頭 数 出 荷	2,000頭未満	181	64.6	21.0	35.4	46.4	3.3
	2,000～9,999頭	245	65.3	19.6	54.7	35.5	2.9
	10,000頭以上	121	61.2	23.1	59.5	38.0	8.3
サ ト ビ レ リ ー	導入済み	130	54.6	50.0	46.2	42.3	4.6
	未導入	423	67.1	12.3	50.1	38.8	4.0